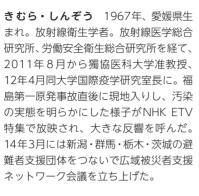


ました。



正しい情報と生きる糧を先の見えない避難者に





木村真三

島の現状

編集部 木村さんは東日本大震災から4日後の 2011年3月15日、職を辞して福島に入って以来、 2011年3月15日、職を辞して福島に入って以来、 を伝え続けています。福島第一原発事故から3年9 を伝え続けています。福島第一原発事故から3年9 をでまして福島に入って以来、

木村 す。二本松は、 康 な る城下町で、 アドバイザーを務めている二本松市の話をし Ŋ かは詳細 浜 通 りの 事故当初に高濃度の放射能雲が通過し な調査が必要です。 中通りの福島市と郡山市の中間にあ 避難指 示地域に人が住める ここでは私が健 か住 ま 8

果と、国の調査とは大きな開きがあります。事故前用にかけて、474地点を測定した汚染地図を作り月にかけて、474地点を測定した汚染地図を作り手にかけて、474地点を測定した汚染地図を作り方法でます。これはまやかしで、定期的に周りを清掃しているモニタリングポストの測定値なんです。しているモニタリングポストの測定値なんです。一本松の行政が真剣になって精度を高めた測定結れているモニタリングポストの測定値なんです。

も、放射能の恐ろしさを改めて感じています。 下回るところが大半を占めてきただけなんです。私故から3年以上過ぎて、ようやく0・5μSV/hを故から3年以上過ぎて、ようやく0・5μSV/h。事界と 国の調査とに大きな関きかあります 事故前

になりました。 パニックになるから」と情報が隠されたことが問題故では、SPEEDIのデータをはじめ、「国民が故では、SPEEDIのデータをはじめ、「国民が

木村 が の志田名地区から始まりました。ここでは住民自ら 行動が見えてくる。私と福島との歩みは、 家を語るような人たちが、上から目線で余計な不安 材料は出さないほうがいいと考えたのでしょう。 ?線量 でも、 国民はそんなに愚かではありません。 一を測定して、 市や県に除染を要望して、この場所でくら 正確な情報を得ることによって、 毎年汚染地図を作っています 具体的 いわき市 天下国

※ 1:インタビュー時の経年。

※ 2: 緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム。

していくための行動を起こしました。

子どもたちへの出前授業

危険箇所を教えたり、

ついての授業もされています 木村さんは、 二本松の小中学校で放射線に

生の子どもは事故当時、まだ幼稚園児です。 木村 前と思われるかもしれませんが、そうではないんです。 いて知らない子もいる。 おこないました。そこで気付いたのは、 14年6月から12月までに30回以上の出前授業を 地元だから知っていて当たり 今、小学4年 事故につ

授業の内容は、どういうものでしょうかっ

木村 ŋ 私が絵を描いたりしながら建物の周りやまちの パ ワ ーポ イントの 一画面でイラストを使った

志田名・荻地区 放射能汚染マップ

志田名・荻地区 放射能汚染マップ

ぱに 回聞 聞いてみて」と。 受けることの大切さを教えています。 いた話を、 『こんなことを習ったけど知ってたかい?』と お父さんやお母さん、 自分で測ることや健康診断 じっちやば そして、

識を与えるというのは、 たことなんて信用できなくなっていますが、 けません。学者がいったこと、まして行政がい ってもらうわけです 言葉なら受け入れられる。 福島の人たちは、 自分の命を自分で守らなけ 子どもたちにその仕事 子どもたちに正し 子ども 11 れ 知

0)

Ų

住んでこそ分かること

編集部 木村さんは志田名地区をはじめ、 住民の家

ば分からないことがあったからでしょうか?

を移されています。

それは、

日常生活を送らなけ

れ

に泊まり込んで測定を続け、

13

年には福島に住

民票

編集部 5 木村 中 木村 打ち切り始めました。これからは、 くんでるけどどうしたの? 最近動いてねえの?」 ルストレス。 ともに見つけ出すことが大切なんです。 せん。そこで何が起こっているかを、住民の方々と でしか分からないことがあります。 いうところにも配慮ができます をかけるのと同じで、 事 そうですね。 故から3年以上経って、 日常に寄り添った支援が必要だと。 かかりつけ医が顔を見て、 支援は、 いっしょに生活すれば、 訪 れる回数じゃあり 国 例えばメン 日常生活 「あ

れ、

と む タ

ŧ

いわき市志田名地区で、木村さんの指導の下、住民が線量を測って作成した汚染地図。〈桃色:0 \sim 0.5 / 紫色: 0.5 \sim 1.0 / 水色:1.0 \sim 1.5 / 緑色: 1.5 \sim 2.0 / 薄黄色: 2.0 \sim 2.5 / 黄色: 2.5 \sim 3.0 / 橙色: 3.0 \sim 3.5(単位は全て μ Sv/h)〉

命を守るためには、自分たちで線量を測ることが必要。 木村さんの指導で二本松の女性や子どもが身に着けてい るバッジ (OSL 線量計) は、一定期間の被曝量をデータ で蓄積。併せて日々の行動を記録しておくことで、高い 線量の被曝があった場合は原因の追求に役立つ

息の長い支援が大切です。 何かイベントをする 細くても 一や行政は支援を 13 か

抜くことにつながります。とか。そうすることが、ちょっとした心の変化も見のではなく、普段から「大丈夫け?」と電話をかける

原発事故は公害問題

編集部 福島に今、必要な支援は何でしょうかっ

木村 福島の被災者を、震災の被災者と捉えて支援 大村 福島の被災者を、震災の被災者と捉えて支援 があって、そこに住む人たちがいる。その健康被害 原発事故は公害問題です。放射能で汚染された土地 原発事故は公害問題です。放射能で汚染された土地 原発事故は公害問題です。放射能で汚染された土地

を考えることが、本当の支援だと思います。や踊りをやります」という支援には、「そうじゃなたちに現状への対策を伝えながら、どうやって心のたちに現状への対策を伝えながら、どうやって心のたちに現状への対策を伝えながら、どうやって心のたちに現状への対策を伝えながら、どうやって心のたちに現状への対策を伝えながら、どうやって心のたちに見います。

題は無視されてしまいます。てしまうと十把ひとからげになって、原発の公害問宮城は震災からの復興です。でも、福島の復興といっ宮城は震災からの復興です。でも、福島の復興といっ

編集部 確かに、無視することでごまかそうとする

福島の

人はいます。

のからの、新たな立て直しという。かなと。「修復」かもしれませんね。汚染されたも復」や健康の「回復」。これが福島全体を指す言葉本村 ふさわしい言葉を探すとしたら、環境の「修

長い闘いのために

医療福祉生協の組合員に求められる今後の支援は?編集部 木村さんも郡山医療生協の組合員ですが、

木村 避難している方に、生きがいを持ってもらう 木村 避難している方に、生きがいを持ってもらう 木村 避難している方に、生きがいを持ってもらう

役割を、医療福祉生協のみなさんには期待します。といけないのに、分断されています。そこをつなぐ児所をつくるとか。避難者は地域社会と交わらない難したお年寄りが地域の子どもたちの世話をする託難とか、ちょっとしたことでもいいですし、避

たちは今、何をすべきでしょうか? 危機感が忘れられているように思います。県外の人編集部 特に福島から離れた地域では、事故当時の

他人の情報ではなく、自分で

木村

知ることです。

めの準備期間。これが私の結論です。
は、何ができるかではなく、そのステップを作るたは、何ができるかではなく、そのステップが始まります。今知ることによって、次のステップが始まります。今知ること。自分の目で見て、自分で経験してほしい。

編集部 収束まで長いですからね

木村 試算すると、線量が一番高いところで500木村 試算すると、線量が一番高いところで500年は帰れません。たぶん国や政府はもっと自分たちにとっては不幸なことが続きます。そこに闘いを挑むためには、20年30年の時間が必要です。それぐらむためには、20年30年の時間が必要です。それぐらむためには、20年30年の時間が必要です。それぐらむためには、20年30年の時間が必要です。

木村真三さんの著書を プレゼント!

3名様 『「放射線 汚染地図」の今』 講談社



本誌綴じ込みハガキにてご応募ください。